

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年7月14日
【四半期会計期間】	第71期第2四半期（自 2021年3月1日 至 2021年5月31日）
【会社名】	川崎地質株式会社
【英訳名】	Kawasaki Geological Engineering Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 栃本 泰浩
【本店の所在の場所】	東京都港区三田二丁目11番15号
【電話番号】	03 - 5445 - 2071（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 財務企画部長 土子 雄一
【最寄りの連絡場所】	東京都港区三田二丁目11番15号
【電話番号】	03 - 5445 - 2071（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 財務企画部長 土子 雄一
【縦覧に供する場所】	川崎地質株式会社西日本支社 （大阪府大阪市西区北堀江二丁目2番25号） 川崎地質株式会社中部支社 （愛知県名古屋市名東区上社二丁目184番地） 川崎地質株式会社北関東支店 （埼玉県さいたま市見沼区東大宮五丁目44番1号） 川崎地質株式会社横浜支店 （神奈川県横浜市中区真砂町四丁目43番地） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第70期 第2四半期 累計期間	第71期 第2四半期 累計期間	第70期
会計期間	自2019年 12月1日 至2020年 5月31日	自2020年 12月1日 至2021年 5月31日	自2019年 12月1日 至2020年 11月30日
売上高 (千円)	4,134,752	5,146,252	7,663,581
経常利益 (千円)	243,894	642,909	256,323
四半期(当期)純利益 (千円)	126,258	422,244	116,784
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	819,965	819,965	819,965
発行済株式総数 (株)	1,057,980	1,057,980	1,057,980
純資産額 (千円)	3,354,404	3,769,662	3,329,902
総資産額 (千円)	5,849,200	6,694,630	8,015,620
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	146.56	489.66	135.57
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	25	25	50
自己資本比率 (%)	57.3	56.3	41.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,594,264	2,122,439	393,420
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	65,825	19,665	98,303
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,712,749	2,229,630	52,615
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	546,567	951,755	1,078,611

回次	第70期 第2四半期 会計期間	第71期 第2四半期 会計期間
会計期間	自2020年 3月1日 至2020年 5月31日	自2021年 3月1日 至2021年 5月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	271.19	316.99

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益は、四半期財務諸表等規則第12条の規定により、関連会社の損益等に重要性が乏しいため記載を省略しております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

当社は、建設工事に関連する地質調査、土質調査を中心に環境・防災・海洋調査業務等を行い、これらに関連する測量、建設計画、設計等の業務および工事を主な事業としております。事業内容の性質上、人が密集する等、一般的に新型コロナウイルス感染症の影響を受けると考えられる事柄との関係性は低い事業であり、現時点では着工中案件の中断等はありません。当社では、当社社員をはじめとする関係者の安全を最優先とする方針のもと、在宅勤務・時差通勤等を推奨し、予防や拡大防止に対して適切な管理体制を構築して対応しております。

ただし、今後新型コロナウイルス感染症の影響が長期に渡る場合などには、当社の経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(1) 経営成績の分析

経営成績の概況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、ワクチン接種による新型コロナウイルス感染症の収束期待が始めてはいるものの、未だに予断を許さない状況下、実態面を見ると国内消費抑制、インバウンド需要の低迷、企業の設備投資に徐々に明るさが見えはじめているものの、本格的な回復はこれからという状態が継続しております。これに米中対立など海外要因も今後のリスクとして留意する必要があります。

当社を取り巻く建設コンサルタントおよび地質調査業界におきましては、2018年12月に策定された国の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に続き、昨年12月に予算規模15兆円の「防災・減災、国土強靱化の5か年加速化対策」が策定されました。

これによりさらなる受注競争の激化が予想されるものの国内公共事業を取り巻く環境はおおむね堅調に推移するものと予想されます。

当社は事業内容の性質上、一般的に新型コロナウイルス感染症の影響を受けると考えられる事柄との関係性は低い事業であり、現時点では着工中案件の中断等はないものの、当社社員をはじめとする関係者の安全を最優先とする方針のもと、在宅勤務・時差出勤、会議等のWEB化等の奨励や業務中のマスク着用徹底など、感染予防や拡大防止に対して適切な管理体制を継続してまいります。

こうした状況の中、当社はコア技術を活かした点検、診断、維持対策工法検討など予防保全業務に注力するとともに、地質リスクに対応した保有・先端技術を活かした提案力をもって、震災等の復興と国土強靱化推進業務をはじめとする自然災害・防災関連等の業務、道路・下水道維持管理をはじめとするインフラメンテナンス業務、再生可能エネルギー、海洋資源開発等、関連業務に全社員協力一致のもと取り組んだ結果、当第2四半期累計期間の経営成績は、次のとおりとなりました。

受注高は、期首より堅調に推移したことに加え一部大型案件も寄与し、53億82百万円（前年同四半期比8.1%増）となりました。

売上高は繰越業務と当期受注業務の順調な完成により51億46百万円（前年同四半期比24.5%増）、営業利益は大型案件を含む原価低減が図られ6億9百万円（前年同四半期比218.5%増）、経常利益6億42百万円（前年同四半期比163.6%増）、四半期純利益は4億22百万円（前年同四半期比234.4%増）となりました。

売上高の季節的変動について

当社は、官公庁・公共企業体をはじめとする公共部門との取引率が高いことから、納期の関係もあり、売上高・利益ともに第2四半期と第4四半期に集中するという季節変動の傾向があります。

(2) 財政状態の分析

（資産）

資産合計は、前事業年度末に比べ13億20百万円減少し、66億94百万円となりました。その主な増減内訳は、完成調査未収入金の減少7億6百万円、未成調査支出金の減少5億85百万円等であります。

（負債）

負債合計は、前事業年度末に比べ17億60百万円減少し、29億24百万円となりました。その主な増減内訳は、短期借入金の減少21億円、賞与引当金の増加3億64百万円等であります。

（純資産）

純資産合計は、前事業年度末に比べ4億39百万円増加し、37億69百万円となりました。その主な増減内訳は、利益剰余金の増加3億99百万円、その他有価証券評価差額金の増加35百万円等であります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ1億26百万円減少し、9億51百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、21億22百万円の増加(前年同四半期累計期間は15億94百万円の増加)となりました。これは主に税引前四半期純利益6億42百万円、引当金の増加3億66百万円、売上債権の減少6億99百万円、たな卸資産の減少5億85百万円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、19百万円の減少(前年同四半期累計期間は65百万円の減少)となりました。有形固定資産の取得による支出50百万円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、22億29百万円の減少(前年同四半期累計期間は17億12百万円の減少)となりました。これは短期借入金の減少21億円、長期借入金の返済65百万円、リース債務の返済による支出42百万円、配当金の支払額22百万円等があったことによるものであります。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当社の調査コンサルタントとしての業務は、その全てが高度な技術力によって支えられており、その向上と新分野、新技術の開発は不可欠なものであります。この為当社は、地盤に関連した広範囲な課題に対する最適なソリューションを提供することを目的として、国、独立行政法人、大学等の研究機関ならびに民間の研究機関との連携による共同研究開発を積極的に進めており、研究開発費の執行状況は2,974千円であります。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,400,000
計	3,400,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2021年5月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年7月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	1,057,980	1,057,980	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	1,057,980	1,057,980	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2021年3月1日～ 2021年5月31日	-	1,057,980	-	819,965	-	826,345

(5) 【大株主の状況】

2021年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	87	9.88
三木 幸藏	神奈川県横浜市青葉区	56	6.30
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	42	4.76
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	32	3.71
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	32	3.62
川崎地質従業員持株会	東京都港区三田二丁目11番15号	24	2.76
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	24	2.71
友田 万里子	神奈川県逗子市	22	2.47
内藤 正	神奈川県海老名市	20	2.31
友田 剛嗣	神奈川県逗子市	16	1.80
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1丁目2番1号	15	1.75
計	-	374	42.09

(注) 1. 上記のほか、自己株式が168千株あります。

2. 株式会社日本カストディ銀行(信託E口)の所有株式(87千株)は、「株式給付信託(BBT)」制度に係る当社株式(25千株)を含んでおります。なお、当該株式は四半期財務諸表においては自己株式として処理しておりますが、発行済株式総数(自己株式を除く。)に対する所有株式数の割合からは控除していません。

(6)【議決権の状況】
【発行済株式】

2021年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)(注)	普通株式 194,400	255	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 858,800	8,588	-
単元未満株式	普通株式 4,780	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	1,057,980	-	-
総株主の議決権	-	8,843	-

(注)「完全議決権株式(自己株式等)」欄の普通株式数には、「株式給付信託(BBT)」の導入に伴い、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する25,500株(議決権の数255個)が含まれております。なお、当該議決権の数255個は、議決権不行使となっております。

【自己株式等】

2021年5月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
川崎地質株式会社	東京都港区三田二丁目11番15号	168,900	25,500	194,400	18.37
計	-	168,900	25,500	194,400	18.37

(注)他人名義で所有している理由等

保有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
「株式給付信託(BBT)」制度の信託財産として25,500株保有	株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2021年3月1日から2021年5月31日まで）及び第2四半期累計期間（2020年12月1日から2021年5月31日まで）に係る四半期財務諸表について、みおぎ監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第70期事業年度	EY新日本有限責任監査法人
第71期第2四半期会計期間および第2四半期累計期間	みおぎ監査法人

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、最新の会計基準及び今後改定の予定されている諸案件について遺漏なく把握できるように努めております。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年11月30日)	当第2四半期会計期間 (2021年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,078,611	951,755
受取手形	4,915	12,049
完成調査未収入金	2,478,784	1,772,354
未成調査支出金	1,107,510	521,594
材料貯蔵品	875	796
前払費用	60,669	53,774
その他	10,755	5,920
貸倒引当金	248	178
流動資産合計	4,741,874	3,318,066
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	563,180	551,601
機械及び装置(純額)	94,401	80,034
土地	1,505,183	1,505,183
その他(純額)	180,929	274,923
有形固定資産合計	2,343,695	2,411,743
無形固定資産		
投資その他の資産	112,565	115,023
投資有価証券	378,165	428,235
繰延税金資産	162,573	147,985
その他	279,746	276,574
貸倒引当金	3,000	3,000
投資その他の資産合計	817,485	849,796
固定資産合計	3,273,746	3,376,563
資産合計	8,015,620	6,694,630
負債の部		
流動負債		
調査未払金	472,526	407,788
短期借入金	2,100,000	-
1年内返済予定の長期借入金	130,000	80,000
未払法人税等	100,108	237,364
賞与引当金	-	364,000
未成調査受入金	551,226	480,081
その他	491,034	443,238
流動負債合計	3,844,896	2,012,472
固定負債		
長期借入金	55,000	40,000
退職給付引当金	550,810	552,919
その他	235,011	319,575
固定負債合計	840,821	912,495
負債合計	4,685,717	2,924,967

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年11月30日)	当第2四半期会計期間 (2021年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	819,965	819,965
資本剰余金	826,345	826,345
利益剰余金	2,113,797	2,512,871
自己株式	553,531	548,328
株主資本合計	3,206,575	3,610,852
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	123,327	158,810
評価・換算差額等合計	123,327	158,810
純資産合計	3,329,902	3,769,662
負債純資産合計	8,015,620	6,694,630

(2) 【四半期損益計算書】
 【第 2 四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第 2 四半期累計期間 (自 2019年12月 1 日 至 2020年 5 月31日)	当第 2 四半期累計期間 (自 2020年12月 1 日 至 2021年 5 月31日)
売上高	4,134,752	5,146,252
売上原価	2,934,155	3,445,924
売上総利益	1,200,597	1,700,328
販売費及び一般管理費	1,109,102	1,109,454
営業利益	191,494	609,873
営業外収益		
受取利息	104	284
受取配当金	4,960	4,951
受取手数料	6,989	6,604
固定資産賃貸料	30,857	29,276
受取保険金	24,556	6,714
その他	1,624	4,567
営業外収益合計	69,093	52,399
営業外費用		
支払利息	12,474	11,694
リース支払利息	4,096	7,667
その他	122	0
営業外費用合計	16,693	19,363
経常利益	243,894	642,909
特別損失		
固定資産除却損	-	534
投資有価証券評価損	28,082	-
特別損失合計	28,082	534
税引前四半期純利益	215,811	642,374
法人税等	89,553	220,130
四半期純利益	126,258	422,244

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	215,811	642,374
減価償却費	84,505	88,853
引当金の増減額(は減少)	219,377	366,039
受取利息及び受取配当金	5,064	5,235
支払利息	12,474	11,694
固定資産除却損	-	534
投資有価証券評価損益(は益)	28,082	-
未成調査受入金の増減額(は減少)	46,105	71,144
未払消費税等の増減額(は減少)	17,931	129,995
売上債権の増減額(は増加)	1,050,804	699,295
たな卸資産の増減額(は増加)	388,265	585,994
仕入債務の増減額(は減少)	298,191	64,738
未払費用の増減額(は減少)	116,306	176,940
預り保証金の増減額(は減少)	750	5,914
その他	24,944	14,920
小計	1,667,990	2,215,729
利息及び配当金の受取額	5,064	5,235
利息の支払額	16,322	19,541
法人税等の支払額	62,468	81,564
法人税等の還付額	-	2,580
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,594,264	2,122,439
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	99,837	50,061
無形固定資産の取得による支出	1,705	472
貸付金の回収による収入	2,307	1,072
その他	33,409	29,794
投資活動によるキャッシュ・フロー	65,825	19,665
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,700,000	2,100,000
長期借入れによる収入	100,000	-
長期借入金の返済による支出	50,000	65,000
セール・アンド・リースバックによる収入	632	-
リース債務の返済による支出	41,194	42,332
自己株式の取得による支出	-	50
配当金の支払額	22,187	22,247
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,712,749	2,229,630
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	184,310	126,856
現金及び現金同等物の期首残高	730,878	1,078,611
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,546,567	1,951,755

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

前事業年度 (2020年11月30日)	当第2四半期会計期間 (2021年5月31日)
1,792,236千円	1,803,684千円

(四半期損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)
給料及び手当	451,714千円	437,447千円
法定福利費	76,757	76,487
旅費及び交通費	36,964	29,933
賞与引当金繰入額	102,639	170,780
退職給付費用	15,789	13,970

2 売上高の季節的変動

前第2四半期累計期間(自 2019年12月1日 至 2020年5月31日)及び当第2四半期累計期間(自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)

当社は、官公庁・公共企業体をはじめとする公共部門との取引率が高いことから、納期の関係もあり、売上高・利益ともに第2四半期と第4四半期に集中するという季節的変動の傾向があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)
現金及び預金勘定	546,567千円	951,755千円
現金及び現金同等物の四半期末残高	546,567	951,755

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2019年12月1日 至 2020年5月31日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年2月27日 定時株主総会	普通株式	22,228	25	2019年11月30日	2020年2月28日	利益剰余金

(注) 2020年2月27日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)および株式給付信託(BBT)制度」が保有する当社株式に対する配当金2,316千円が含まれております。

(2) 基準日が当事業年度の開始の日から当四半期会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年7月10日 取締役会	普通株式	22,228	25	2020年5月31日	2020年8月7日	利益剰余金

(注) 2020年7月10日開催の取締役会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)および株式給付信託(BBT)制度」が保有する当社株式に対する配当金2,249千円が含まれております。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

前事業年度末日と比較して著しい変動はありません。

当第2四半期累計期間(自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年2月25日 定時株主総会	普通株式	22,227	25	2020年11月30日	2021年2月26日	利益剰余金

(注) 2021年2月25日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)および株式給付信託(BBT)制度」が保有する当社株式に対する配当金2,249千円が含まれております。

(2) 基準日が当事業年度の開始の日から当四半期会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年7月13日 取締役会	普通株式	22,226	25	2021年5月31日	2021年8月6日	利益剰余金

(注) 2021年7月13日開催の取締役会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)および株式給付信託(BBT)制度」が保有する当社株式に対する配当金2,196千円が含まれております。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

前事業年度末日と比較して著しい変動はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2019年12月1日 至 2020年5月31日)

当社は、建設工事に関連する地質調査、土質調査を中心に環境・防災・海洋調査業務等を行い、これらに関連する測量、建設計画、設計等の業務および工事を営む単一事業の企業集団であることから、記載を省略しております。

当第2四半期累計期間(自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)

当社は、建設工事に関連する地質調査、土質調査を中心に環境・防災・海洋調査業務等を行い、これらに関連する測量、建設計画、設計等の業務および工事を営む単一事業の企業集団であることから、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年5月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)
1株当たり四半期純利益	146円56銭	489円66銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	126,258	422,244
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	126,258	422,244
普通株式の期中平均株式数(株)	861,461	862,322

- (注) 1. 「株式給付信託(BBT)」制度に残存する当社の株式は、「1株当たり四半期純利益」を算定するための普通株式の期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(前第2四半期累計期間27千株、当第2四半期累計期間25千株)
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2021年7月13日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 当第2四半期末配当による配当金の総額.....22,226,850円

(ロ) 1株当たりの金額.....25円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2021年8月6日

(注) 2021年5月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年7月13日

川崎地質株式会社

取締役会 御中

みおぎ監査法人

東京都千代田区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 新川 良 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 中村 謙介 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている川崎地質株式会社の2020年12月1日から2021年11月30日までの第71期事業年度の第2四半期会計期間(2021年3月1日から2021年5月31日まで)及び第2四半期累計期間(2020年12月1日から2021年5月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、川崎地質株式会社の2021年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

その他の事項

会社の2020年11月30日をもって終了した前事業年度の第2四半期会計期間及び第2四半期累計期間に係る四半期財務諸表並びに前事業年度の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期財務諸表に対して2020年7月10日付で無限定の結論を表明しており、また、当該財務諸表に対して2021年2月25日付で無限定適正意見を表明している。

四半期財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。